

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2016年6月1日
(No. 82・今年度もどうぞよろしく！号)

2016
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（10）

柳瀬川の上流部

曼荼羅淵から上流へ向かうと、西武新宿線のすぐ上流で2本の川が合流しています。向かって左の東村山市を流れて来るのは支川の北川で、約3.3km上流で多摩湖堰堤下の源流に達します。右側が柳瀬川で、所沢市の郊外住宅地を流れてきます。川は小さな蛇行を繰り返していて、流路はそれほど変えられていないように思えますが、川の両側は殆んどがコンクリートブロック護岸で固められ単調な景観です。写真は西武狭山線の下山口駅近くで、この付近まで来ると川の掘り込みは浅くなっています。

（天田 眞）

2015 年度の報告と 2016 年度の予定

● 2015 年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

① **里山の手入れ**：「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の2か所の斜面林の日常管理作業（清掃、落葉掃き、下刈、中低木の除伐・剪定、急斜面保護、希少植物の保全等）を行いました。（計3回/月）

② **河川敷の清掃**：柳瀬川右岸志木中学校付近と新河岸川右岸富士下橋下流の2か所で河川敷のごみ拾いを行い、県の「川の国応援団」の活動として報告しました。（各1回/月）

③ 外来植物駆除事業

(a) **いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」保全作業**：カヤネズミやオオヨシキリなど希少生物の保護のため、オオブタクサの駆除作業を行いました。（5回）

(b) **柳瀬川・外来植物駆除作戦**：志木中学校生徒188名の参加を得て、柳瀬川右岸東上線から志木中学校下流までのアレチウリ・オオブタクサの駆除作業を行いました。（1回）

◆調査、研究事業

① **柳瀬川生きものウォッチング**：柳瀬川右岸富士見橋～高橋及び富士見市水谷田んぼで動植物の調査を行いました。（1回/月）

② **県民参加生き物モニタリング調査**：埼玉県の実業に参加し、上記①の活動で得られたデータを提供しました。

③ **身近な川の一斉調査**：「新河岸川水系」と「全国」の調査に参加し、志木中学校科学部と共に、市内8か所の水を調査しました。（1回）

④ **埼玉県内一斉ガンカモ調査**：埼玉県生態系保護協会志木支部の柳瀬川志木大橋～新河岸川合流点の調査に協力しました。（1回）

◆観察会及び学習・教育事業

① **柳瀬川であそぼう**：親子向けの魚捕り体験等の川遊びイベントを実施しました。（1回）

② **自然観察会**：大人向け企画として、柳瀬川・新河岸川・旧新河岸川・いろは親水公園等で春と秋に「志木の自然観察会」を、柳瀬川で「冬の野鳥観察会」を開催しました。（計3回）

③ **「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」**：いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」で、カヤネズミの生息環境保全への意識醸成を図る親子向けのイベントを行いました。（1回）

④ **ぶらり散歩**：「野火止用水ぶらり散歩」の後半として、玉川上水を羽村取水堰まで2回で歩き、又、「宗岡ぶらり散歩」として、荒川堤外の水田地帯等を歩きました。（計3回）

⑤ **小学生の環境学習への協力**：小学校の総合学習やクラブで講師を務め、地域団体の柳瀬川での生き物調査に協力しました。（7件）

⑥ **市民講座等での講師**：富士見市民大学の講座及びフフィールドワークの講師を務めました。（2回）

⑦ **ボランティア・NPO 体験者受け入れ**：社会福祉協議会のボランティア体験事業で中学・高校生を受入れました。（6名）

⑧ **イベントへの参加・出展**：地域の催事等に参加し、出前水族館やどんぐり・落葉工作、活動紹介展示や資料配布を行いました。（6件）

◆出版、広報事業

① **エコシティ志木通信の発行**：本紙とイベントカレンダーを年4回発行しました。

② **ホームページ管理**：エコシティ志木ホームページ及びブログで情報発信を行いました。

③ **活動紹介展示**：催事で当会の活動状況の展示を行いました。（2件）

④ **（仮称）『いきもの図鑑』刊行事業**：2017年の刊行を目指し、現地調査・掲載種選定・写真撮影・説明文作成等の作業を進めました。

◆エコミュージアム事業

① **志木まるごと博物館 河童のつづら**：ホームページによる情報発信や電子書籍を試験発行しました。

② **志木ぶらり散歩マップ改訂版刊行事業**：2008年度に発行したマップの改訂版を1000部発行しました。

● 2016 年度の計画

15年度事業の内、最後の『マップ刊行』以外は全て16年度も継続します。（天田 眞）

3月20日（日）野火止用水ぶらり散歩（4）

拝島駅から玉川上水に沿って羽村取水堰まで歩きました

「野火止用水を歩く」という企画の4回目（最終回）に参加し、拝島駅（福生市）から歩き、玉川上水の取水堰に到達しました。

江戸時代につくられた玉川上水は飲料水として使われたばかりか、広く武蔵野台地一帯を潤す貴重な水源ですが、途中に「水喰土（みずぐらいど）公園」というのがありました。

最初に開削した用水の水が地面に吸い込まれて（喰われて！）完成しなかったという場所で、堀跡がそのまま残っているのです。旧堀跡はこの他にもあり、短期間で完成したといわれる玉川上水にも工事には多くの困難があったことを忍ばせます。

奥多摩街道から多摩川の河岸段丘をのぞむ小高い崖の上に出ると、多摩川低地を一望する雄大な光景が広がります。ここで、「これで武蔵野台地を横断したことになります」との案内者の天田さんの言葉に一同感激。確かに、荒川低地の新河岸川に注ぐ野火止用水の暗渠を歩いて廻りはじめて、ここはとうとう多摩川なのです。取水堰の付近は開放的な公園の雰囲気がただよっています。

江戸時代、この多摩川の水がいくつもの用水を経て、武蔵野台地を横切り、荒川に注いでいました。現在は逆に、荒川の秋ヶ瀬取水堰からの水が、多摩川水系の村山貯水池に送られ、多摩川の水と一緒に東京都民の飲料水になっています。そのルートは昔の野火止用水→玉川上水とほぼ同じです。さらにその荒川の水には少なからぬ利根川の水が含まれているのですから、古代からの水と人間の営みの壮大さを感じます。

（筑井信明）



玉川上水の水路に沿って歩く



水喰土（みずぐらいど）公園の開削跡におりる



多摩川の河岸段丘の崖上から多摩川低地を一望する



羽村取水堰

【写真：青木明雄】

4月17日（日）志木の自然観察会（春）

五感で感じる川のまち志木

4月17日は大変な強風の中でしたが、雨はどうか降らずにすみましたので

予定のコースを歩き自然観察会を行いました。今回のコースは柳瀬川駅前を集合場所として、サミット裏から河原におり、下流に向け歩き、富士見橋の下をくぐったのち、富士見橋を渡り水谷田んぼへ出ました。水谷田んぼ内を観察し、東上線をくぐり恵愛病院方向に向かい、今度は柳瀬川左岸を志木大橋へ向かいしました。

柳瀬川の河原は毎年変化していますが、今年は数か所に砂利が広がり川に降りられる箇所があったので自然観察の順路をこのように決めたわけです。また、水谷田んぼには開発の話も出ているようですので、貴重な自然の保全という問題への思いも含めてこの順路で実施したわけです。

あいにくの天気の中でしたが春の野草は観察できましたが、毎年実施している「五感による河川環境指標」のチェックは残念ながら実施できませんでした。（加藤健二）



強風の中、熱心に観察する参加者たち（写真：青木明雄）

5月15日（日）柳瀬川生き物ウォッチング

河川敷の清掃や外来生物の調査もおこないます

この事業は、毎月1回、柳瀬川右岸の富士見橋～高橋間と水谷田んぼで、河川環境や生き物の変化を継続して観察調査するとともに、会員相互の情報共有・スキルアップを目的に実施します。

また、埼玉県「川の国応援団」制度の美化活動団体として志木中学校前の河川敷のごみ拾いと、埼玉県主催の「県民参加生き物モニタリング調査」に参加し、今年度は外来生物の現状をも調査します。

本日は、「広報しき」の取材もあり、新鮮な雰囲気調査ができました。

水谷田んぼでは所々で田起こしが始まっていましたが田植えはまだまだのようです。キジのオスが現れて目を楽しませてくれましたが、全体的に鳥たちの姿は少なく、淋しい印象でした。植物や



（写真：青木明雄）

鳥など、調査対象によって参加者はバラバラになりがちですが、できるだけ共有できる機会をつくりながら調査活動を進めたいと思います。

（毛利将範）

いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の保全・啓発活動

志木市いろは親水公園内にある「ヨシ・オギ群落保全地」には、埼玉県準絶滅危惧種「カヤネズミ」や夏の渡り鳥オオヨシキリが繁殖するなど、市内にあって貴重な自然環境となっています。

「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2016」では、このような貴重な自然を保全することと、自然の中で楽しむことを目的に事業を展開する予定です。また、特に今年度は、埼玉県の依頼により、侵略的外来種オオブタクサの駆除に関する研究・実験も行う予定です。

実施にあたっては、より多くの市民に感心を持ってもらうことを目的に、従来の小学生とその家族を対象におこなう楽しめる企画に加え、中学生や高校生、一般の方にも参加を呼びかけて保全作業をおこないます。さらに、保全にあたっては、より効果的な駆除のためのデータ収集も併せておこなうためのプログラムを実施する予定です。

5月1日に準備のための現地調査をおこないました。今後は以下の日程で進めていく予定です。内容に関しては今後検討していく予定ですので、できるだけ多くのスタッフの方の参加をお願いいたします。

(毛利将範)



5月1日の調査のようす

〈今後の予定〉

- ① 6月18日(土) 9時～10時半
オオブタクサ除去作業
- ② 7月3日(日) 9時～10時半
オオブタクサ除去作業 (チラシ参照)
- ③ 8月7日(日) 9時～10時半
オオブタクサ除去作業
- ④ 9月4日(日) 9時～10時半
オオブタクサ除去作業
- ⑤ 10月2日(日) 9時～10時半
オオブタクサ除去作業
- ⑥ 11月6日(日) 9時～12時
カヤネズミの巣をさがそう！

*予定は変更になる場合もあります。



7月3日のチラシ

NPO法人化から現在の活動へ

NPO法人エコシティ志木代表理事

天田 眞



小学校の環境学習に協力しています(2015年11月13日 写真:青木明雄)

NPO法人として再出発

2000年頃から法人化の検討を始めていましたが、2002年4月にNPO法人の設立総会を開催。8月に県の認証および法人登記し、志木市内で3番目のNPO法人となりました。

定款では、会の目的として、「志木市およびその周辺において、自然豊かな循環型社会の実現、市民主体で、全ての人が同等の権利を享受できる福祉の充実した地域社会をめざすことを目的に活動します。」と決めました。また、活動の種類として、法で定められた分野の中から「①保健、医療又は福祉の増進を図る活動、②まちづくりの推進を図る活動、③環境の保全を図る活動」を選んでいます。

法人化後は、以前からのものに加え新たなプロジェクトが立ち上がり、多くは現在まで続いています。最後に、現在の主要な活動の立ち上げから現在までの流れをまとめました。

●里山(斜面林)の手入れ

(a) いろは親水公園こもれびのこみち

西川家所有の斜面林を市が借地し、市民緑地「ふれあいの森」となっていたましたが、2008年に市に寄付され、2008年7月から公園美化活動会として月1回の作業を開始。枝葉の影に隠れていた大量のごみの搬出のあと、大きく育ったシュロの伐採を重点に作業を始めました。「公園美化活動会」は志木市がつくった市民ボランティアによ

る公園管理の制度ですが、名称からわかるように主に清掃主体で考えられたもの。当会が目指すのは自然緑地の保全管理ですが、そうした制度が市に無いため、これを流用しています。

(b) 西原ふれあい第三公園

区画整理事業が始まるまでは複数の地権者の土地で、市が借地して「ふれあいの森」となっていました。区画整理で線路沿いに坂道が計画されていましたが、その工事が始まる前の2002年9月に、道路予定地にあった野草群落を移植。2002年12月から市のクリーンボランティア(アダプト)制度で、月1回の手入れ作業を定例化しました。当初は線路に近い部分で活動を始め、徐々に広がっていきましたが、本格的に工事が始まるということで、2008年1月で一旦活動を停止しました。区画整理事業が竣工し、公園として市に移管された2009年8月から、公園美化活動会として手入れ作業を再開し現在に至ります。

●河川敷の清掃

2007年4月に埼玉県「水辺の里親」に登録し、柳瀬川の志木中前で月1回のごみ拾いを開始。2009年2月からは新河岸川右岸富士下橋から下流でも始めました。この登録制度の名称は、後に「彩の国リバーサポート」と変わり、現在は「川の国応援団」となっています。また、本年度から

は同じく富士下橋下流の左岸側のカヤ原（オオブタクサ抜取活動）も登録する予定です。

●外来植物駆除

1998年夏に柳瀬川右岸でオオブタクサの抜き取り作業を開始。1999年からは志木中学校生徒が参加し、後に100名以上が参加するようになりました。途中からはアレチウリの害がひどくなり、2012年頃は駆除回数を増やしましたが、2013年からは埼玉県による高水敷掘削工事が始まり、柳瀬川では大型外来種は一旦減少しました。新河岸川ではいろは橋上流で2010年（市制施行40周年事業）と2011年にオオブタクサ・アレチウリの抜取を実施。2014年から、合流点下流のいろは親水公園ヨシ・オギ保全地でオオブタクサの抜取を開始。現在は駆除活動の重点を柳瀬川からここに移しています。

●柳瀬川生き物ウォッチング

1997年から柳瀬川に沿って野鳥調査を始め、コースや回数の変更を経て、柳瀬川から水谷田んぼを回る月1回の調査となりました。2001年からは志木中前を拠点に月1回の水生生物調査も開始。2002年度から野鳥と水生生物を合体し、同日に2班に分かれての調査となり、一時は堤防上で出前水族館の展示も行いました。2014年からは定期的な川の中の調査は中止し、植物も含めた生き物全般の調査としています。

●生き物モニタリング調査

2009年度から始まった県の事業に参加。第1期調査が2013年度まで、第2期が2015年度まで、本年は第3期の「侵略的外来生物」を対象とした調査を実施中です。

●身近な川の一斉調査

1996年度から新河岸川水系一斉水質調査に参加し、年1回の調査を始め、2004年度からは全国一斉調査を兼ねています。1997～2011年は宗岡中学校科学部が、2013年からは志木中学校科学部が参加しています。

●柳瀬川で遊ぼう

2000年夏、魚捕りを中心とした子ども向け企画「水辺の生き物調べ隊」として実施。2001年

からは「柳瀬・川まつり」として、場所は志木中前か志木大橋下流で、年に1回実施。名称は度々変わり、現在は「柳瀬川で遊ぼう」として志木中前で実施しています。

●自然観察会

元々は生態系保護協会志木支部と志木市立教育サービスセンターの主催で1994年から始まったもので、途中から当会も共催になりました。「春の野草」「初夏のツバメ」「夏のトンボとチョウ」「秋の鳴く虫」「冬の渡り鳥」と年間5つのテーマで実施。後に全体の名称として「子どもとおとなの自然塾」をつけました。現在は志木の自然観察会（春・秋）と冬の野鳥観察会として実施しています。

●川のぶらり散歩

1996年から「川を歩く会」として柳瀬川・新河岸川・野火止用水等を度々歩きました。2008～2013年に新河岸川最上流の入間市から浅草までを8回で、2014～2016年に野火止用水・玉川上水を4回で歩きました。本年からは3度目の柳瀬川歩きを予定しています。

●小学校の環境学習

1996年から小学校数校で、プール開き前にプールに棲むヤゴを助け出す「プールのヤゴ救出作戦」を始め、1999年に「とんぼにな～れ！プールのヤゴ救出作戦マニュアル」を発行。しかし、福島原発事故後にプール底の泥から基準を上回る放射性物質が測定されたため、2012年度から中止されています。2002年から志木小さいききタイム（現こどもエコクラブ）の講師。2003年から志木小・志木三小等で柳瀬川の自然学習が始まりました。

●河童のつづら

2002～2007年まで、「お宝発見ツアー」として、市内や周辺部のエコツアーを年に数回行いましたが、現在は「ぶらり散歩」に引きついでいます。2003～2005年に「お宝交流シンポジウム」を3回開催。2004年には「河童のつづら検定」、2009年には「志木ぶらり散歩マップ」を発行。2009年～2010年に宗岡地区等の水塚調査を実施し、2011年に「水塚の文化誌」を刊行しました。

勉強会を兼ねたレビューで内容チェック



今年から勉強会を兼ねたレビューを始めました。1月から4月までは、Cチーム（山崎リーダー）担当分のトンボ（13種）、チョウ（43種）、シダ（30種）と草本（136種）について行いました。

トンボとシダについては、それぞれ個別には説明をつけず、写真と名前だけにしています。

シダについては、これまであまり観察を行ってこなかったこともあり、確認しながら進めています。こもれびのこみちでは、いろいろな種類のシダを見ることができます。木陰の中で撮ってきた写真ですが、もう一度撮り直すことにしました。

チョウについては、名前だけでなく、簡単な説明を加えた形での掲載としています。何といっても一番多いのは、草本で136種を掲載します。種類ごとの説明文もしっかりついています。植物の写真も、なかなか難しい。花だけがきれいに写っているだけでは、葉っぱや茎に特徴があるものの名前を調べにくい。基本的に、花が咲いている時に目に留まり、図鑑で調べることが多くなるが、それでも全体の形や、葉の特徴もほしくなり、写真の撮り直しを進める事にしました。

5月からは、Bチーム（毛利リーダー）担当分です。（青木明雄）

5月8日（日）志木おやこ劇場子どもまつり

今年もお祭りに参加しました

志木ニュータウン中央公園で開催された子どもまつりに、当会は今年も「柳瀬川水族館」と「ドングリ工作」で参加しました。

今年は、現在進行中の「いきもの図鑑」づくりのために魚たちの撮影もおこないました。子どもたちを楽しませたりモデルとなったりと、シマドジョウやヌマチチブなど柳瀬川の魚たちは例年以上にお疲れだったことと思います。終了後川に放すと勢いよく泳ぎ去り、その様子を見て、少しホッとしました。

ドングリ工作にも、今年も多くの子どもたちが来てくれました。おとなも絵筆を持って子どもといっしょに楽しんでました。絵の具を混ぜたり塗りがくったり、とっても癒されるようで、その生き活きた顔に、こちらも癒されました。（毛利将範）



動き回る魚たちに興味津々



どングりや葉っぱに色塗りを楽しむ子どもたち

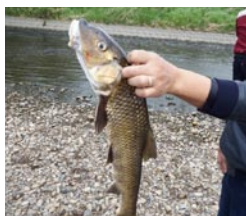
- ① 氷川神社の林が無くなった→ 3月 13日(日) 館氷川神社(柏町 3丁目)
- ② ホオアカ(1) → 3月 13日(日) 水谷田んぼで[写真: 青木明雄]
- ③ ツバメ(1) → 4月 11日(月) 本町 6丁目で[毛利将範]
- ④ ウグイス(囀り) → 4月 12日(火) 朝霞市宮戸 3丁目で[毛利将範]
- ⑤ ニゴイ(群れ) → 4月 17日(日) 柳瀬川で釣り人の獲物[写真: 青木明雄]
- ⑥ カントウタンポポ(群落) → 4月 19日(火) 敷島神社境内の田子山富士の斜面一面
に群落があり、毎年咲くのが楽しみです[毛利将範]
- ⑦ シマドジョウ(2) → 4月 8日(日) 柳瀬川で[写真: 毛利将範]
- ⑧ トウキョウダルマガエル(1) → 5月 15日(日) 水谷田んぼの水路で[青木明雄]
- ⑨ ワカケホンセイインコ(1) → 5月 21日(土) 本町から朝霞市宮戸 3丁目方向へ[毛利将範]
- ⑩ カッコウ(声) → 5月 25日(水) 午後 2時、数年ぶりに東の森壱番街にてカッコウ
の鳴き声を聞きました。館第三公園の方から聞こえました[天田いづみ]



① 館氷川神社 [毛利]



② ホオアカ [青木]



⑤ ニゴイ [青木]



⑥ カントウタンポポ [毛利]



⑦ シマドジョウ [毛利]



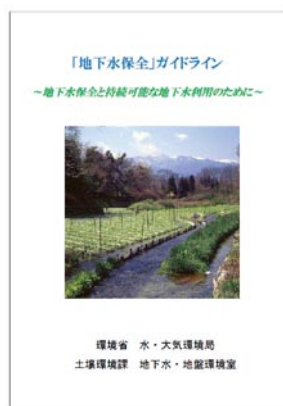
⑧ トウキョウダルマガエル [青木]

環境 ひとくちメモ (40) 伊藤 智明

『地下水保全』ガイドライン

環境省は、地方公共団体等の地下水保全施策を支援することを目的に、地下水をめぐる最近の動向と地下水保全に向けた技術的、法・制度的課題、地下水保全のあるべき基本的な考え方を整理し、地下水の適切な保全管理のための方策を『「地下水保全」ガイドライン～地下水保全と持続可能な地下水利用のために～』に取りまとめています。

平成 26 年 7 月に施行された水循環基本法の基本理念では、「水が国民共有の貴重な財産であり、公共性の高いものであること、総合的な管理と適正な利用によってその恩恵が将来にわたって享受されなければならないこと、水循環系全体に与える影響を回避又は最小にし、流域を単位とする総合的かつ一体的な管理が必要であること」などが



『地下水保全』ガイドライン表紙

示されており、水循環の重要な構成要素である地下水の利用環境についても同様の保全管理が求められています。

出典：環境省 報道発表資料 平成 28 年 5 月 19 日
『「地下水保全」ガイドライン～地下水保全と持続可能な地下水利用のために～』について
<http://www.env.go.jp/press/102525.html>

☆会員状況

2016年度更新済み（5月22日現在）

正会員(個人) 26

正会員(団体) 1

賛助会員 1

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

2016年度 役員

代表理事 天田 眞

理事 青木 明雄 事務局長

伊藤 智明

加藤 健二

毛利 将範

副代表／広報部会長

山口 美智江

副代表

山崎 光久

監事 宇津木 美恵子

松田 勝正

2016年度 予算 (2016年4月1日～2017年3月31日)

特定非営利事業に係る事業（今年度の収益事業計画はありません）

●収入

(単位:円)

科 目	予算額	備 考
1 会費等収入	140,000	
個人会費	120,000	
団体会費	10,000	
賛助会費	10,000	
2 事業収入	200,000	
保全・管理・創出	40,000	斜面林管理報奨金
調査・研究	60,000	生き物モニタリング調査費
観察会・学習・教育	100,000	謝金、参加費、資料代等
出版・広報	0	
エコミュージアム	0	
提言	0	
3 助成金収入	20,000	
行政	20,000	
その他	0	
4 雑収入	10,000	
寄付金等	5,000	
その他	5,000	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	370,000	
前期繰越金	1,080,891	
収入合計	1,450,891	

●支出

1 事業費	188,000	
保全・管理・創出	20,000	斜面林管理、外来種駆除等
調査・研究	5,000	生物調査等
観察会・学習・教育	50,000	観察会等
出版・広報	90,000	エコシティ志木通信、(仮)生き物図鑑
エコミュージアム	5,000	
提言	5,000	
保険料	13,000	
2 管理費	200,000	
租税公課	0	
旅費交通費	2,000	
通信運搬費	2,000	
消耗品費	1,500	
給与手当	0	
事務局経費	160,000	事務局分散運営費
印刷費	1,500	議案書等
参加団体会費	18,000	7団体
雑費	5,000	
会議費	10,000	運営会議等会場費
3 予備費	12,000	
当期支出合計	400,000	
当期収支差額	△30,000	
次期繰越金	1,050,891	

ハチの仲間で、幼虫が葉を食べるものをハバチと呼びます。チュウレンジバチとルリチュウレンジはいずれも園芸家からは害虫として嫌われています。幼虫は小さなイモムシ状で、チュウレンジバチはバラの葉を食べ、ルリチュウレンジはつつじの葉を食べます。成虫は8～10mm程の似たような形ですが、チュウレンジバチは腹部がオレンジ色で翅は黒いのに対し、ルリチュウレンジは全身が黒藍色です。

カブやダイコンなどアブラナ科の野菜を食べる小さな真っ黒なイモムシはカブラハバチ・ニホンカブラハバチ・セグロカブラハバチ。幼虫は捕まえようとするとポロっと落ちて根本に隠れてしまいます。成虫は7mm位で頭と翅が黒く、胴体はオレンジ色。

ハグロハバチの幼虫は、河川敷などに多いギシギシを食べるのでよく見かけます。背中

が青く腹側が黄色で側面には黒い点が並ぶイモムシで、丸めた体を上手に葉にくっつけて休んでいる姿は大変かわいいです。

コブシの葉の裏に群がり、時に丸坊主にすることもあるのがコブシハバチ。幼虫は30mm位まで成長し、一か所に大小の幼虫が一緒にいることもあります。年に1回の発生で幼虫は5月頃に見られます。ハグロハバチもコブシハバチも成虫は全身が殆ど黒く良く似ています。

ハバチは刺すことは全くありませんから捕まえても大丈夫です。

ガやチョウの幼虫とハバチの幼虫の違いは腹脚でわかります。昆虫の足は3対ですが、幼虫にはイモムシの中央部に幼虫にだけある腹脚と呼ばれる足が付いています。これが4対なのがチョウやガでハバチは5対以上あります。



つつじを食べるルリチュウレンジ



ルリチュウレンジの成虫



葉から落ちたセグロカブラハバチ幼虫



セグロカブラハバチの成虫



ギシギシの葉で休むハグロハバチ幼虫



ハグロハバチの成虫



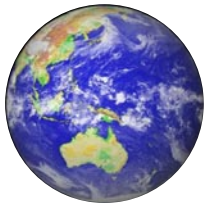
コブシの葉裏に群がるコブシハバチ



コブシハバチの成虫



ハバチの仲間に喰われたサクラ



地球と日本の自然 (21)

少しよみがえる東京湾

加藤 健二

東京湾の歴史を前号で、江戸から昭和の高度成長期にかけての変遷を駆け足で見ましたが、その中でも昭和の高度成長期には、魚の影さえない「死に瀕した」東京湾となってしまったことを紹介しました。当時の汚れた東京湾を記憶されている方も多いと思います。

今号は東京湾の自然が、少しよみがえってきたことを記述しようと思いますが、その前に東京湾の自然構造がどのようなものか見ていきます。

日本の三大湾の伊勢湾や大阪湾と比較しますと、東京湾は外海との海水交換が少ない閉鎖性の強い海域と言えます。地図を見てみますと、東京湾の中央点となる横須賀観音崎と富津市富津岬を結ぶ距離は7kmと狭く、湾央が狭窄した細長い構造となっています。この線を境として東京側を「内湾」、太平洋側を「外湾」と呼んでいます。

閉鎖性の強い湾ですが神奈川、東京、千葉、埼玉などから約35の河川により淡水が供給され、水質の交換や土砂の流入は大きく、遠浅で生命に富んだ湾と言えます。

さて、高度成長期に水質を汚濁してきた第一要因は工業排水と言えますが、各家庭の生活排水も見逃せず、流入する水の大半が汚濁排水でした。

地域全体の現在の下水道普及率は88%になりましたが、昭和60年の同普及率は約50%だったので、東京湾は工業排水と家庭排水の複合汚

染の湾と言えます。その後、工業排水は規制と水処理の進歩により徐々に克服されていき、家庭排水は時間がかかりましたが下水道が整備され、また処理

場の拡充で水質浄化へと向かいました。なお現在の下水処理方法は、薬品を一切使用せず、微生物の分解だけで水の浄化を行い、東京湾の自然に寄与しています。

さて、湾の構造を見る上で海の深さや岸辺の状態はどうでしょうか。

高度成長下で船は巨大化し、海上交通量は飛躍的に増加し、浦賀水道航路では1日700隻を超え、航路の浚渫も進められ、かつ大型船が接岸する護岸は水深20m超えが求められました。かつて遠浅の干潟と緩やかな勾配を持つ地形が、埋め立てと浚渫により、水草と砂場の魚貝類の産卵を含めた生活場は海岸線比較で四分の一に減少しています。(前号参照)

このような状況ですが、幸い水質は回復しつつあり、よみがえりつつある自然を見ることが出来ますので次号以降で触れていきます。

*地図は Wikipedia の画像を拝借しました。



編集後記

◇総会準備、いきもの図鑑づくりの打合せ・原稿執筆・写真整理、加えていつもの活動、と、特に年度末から新年度にかけて多忙な日々が続きました。◇総会も無事終了し、手元の議案書を改めて見ますと、こんなにいろんな事業をこなしていたのか！ 驚きです。◇会員のみなさま、今年度もどうかよろしくお願い致します！（梶）

エコシティ志木通信

第82号 2016年6月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

エコシティ志木の
イベントカレンダー



2016 年
6 月→9 月



「柳瀬川であそぼう」(昨年 7 月 26 日) のようす <写真: 青木明雄>

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まると博物館を楽しみたい人 ……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円
賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください
<振替番号>00510-4-13225 <加入者名>エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com

◆2月◆

- 22日(月) 志木小学校クラブ発表会
 25日(木) エコシティ志木通信印刷発行作業
 27日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
 28日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業

◆3月◆

- 4日(金) 柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
 6日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
 6日(日) (仮) いきもの図鑑全体会・分科会
 12日(土) (仮) いきもの図鑑推進会議
 13日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
 13日(日) (仮) いきもの図鑑勉強会
 15日(火) 志木NPO法人連絡会議
 16日(水) エコシティ志木定例運営会議
 20日(日) 野火止用水ぶらり散歩 (4) 羽村取水堰
 21日(月) 新河岸川水系水質調査報告会
 26日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
 27日(日) コミュニティ協議会さくらフェスティバル

◆4月◆

- 8日(金) 柳瀬川流域ネットワーク年次懇談会
 10日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
 12日(火) (仮) いきもの図鑑推進会議
 14日(木) (仮) いきもの図鑑全体会・分科会
 16日(土) 柳瀬川生き物ウォッチング
 17日(日) 志木の自然観察会 (春・柳瀬川)
 17日(日) エコシティ志木臨時運営会議
 19日(火) エコシティ志木定例運営会議
 23日(土) いろは遊学館利用者の会総会
 24日(日) (仮) いきもの図鑑勉強会
 26日(火) 埼玉県生き物モニタリング調査説明会
 26日(火) エコシティ志木会計監査・臨時運営会議
 30日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業

◆5月◆

- 1日(日) いろは親水公園カヤ原植生調査
 3日(火・祝) エコシティ志木 2016年度第1回理事会
 7日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
 8日(日) 志木おやこ劇場こどもまつり
 10日(火) 志木小学校5年柳瀬川総合学習
 10日(火) エコシティ志木総会議案書印刷発送作業
 15日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
 16日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
 17日(火) 新河岸川流域川づくり連絡会
 18日(水) エコシティ志木定例運営会議
 20日(金) (仮) いきもの図鑑全体会・分科会
 21日(土) 新河岸川水系水環境連絡会総会
 22日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
 22日(日) (仮) いきもの図鑑勉強会

斜面林手入れに参加しましょう

志木市は、貴重な斜面林が2カ所あります。

いろは親水公園の「こもれびのこみち」とニュータウンの脇にある「西原ふれあい第三公園」で、「西原の森」と呼ばれています。小さな森ですが、ここには、いろんな生き物が棲み、野鳥もやってきます。いろいろな植物も目を楽しませてくれます。

去年は、ツミを見かけた人がいました。日本では一番小さい猛禽類です。カッコウも来るようだ。これだけの自然があるだけでも、いろいろな生き物のちょっとした休息所になっています。これからも大切に守っていききたいですね！

(青木明雄)



こもれびのこみち



西原ふれあい第三公園



NPO法人 エコシティ志木

みなさんの参加をお待ちしています！